

1年生が創作した短い物語

図書館オリエンテーションのとき、1年生が挑戦してくれました

これは、お題文（60字）のあとに、80文字以内で続きを考えるというものです

作品例

お題文

年組 司書O

『ちよいつルオヤジ』
僕と犬が歩いていると猿が現れた。猿の要求に應えると猿は僕たちの仲間になった。僕らが進んでいると、物陰に黒い影…だれだ！
「さつさと腰につけたものをよこしな」
「あげてもいいけど、僕らのメリットは？」
「そうだな…、鬼退治を助け、新聞の一面を飾り、立派なきじになってやるよ」

褒：お褒めの言葉

創作の目的：

「多面的な見方を持つこと」
読み手側でなく、書き手側の視点になることで、新たな視点が持てる

※1 作品の一部を変更している場合があります

※2 氏名を出したくない場合、ペンネームや無記名としています

『ある日の日常』

一年一組 S

僕と犬が歩いていると猿が現れた。猿の要求に應えると猿は僕たちの仲間になった。僕らが進んでいると、物陰に黒い影…だれだ！
「ママよ、あんたまた宿題もしないで犬の散歩に行つて！ しかもまた動物に勝手にエサなんかあげたりして！」
結局、一晩中お説教されましたぞ。

褒：「犬」、「猿」というフリを上手く使い、しっかりと落とす。タイトル通り、いつものことなんだろうなと思わせるところも上手い。

『放送事故』

一年三組 弟子E

僕と犬が歩いていると猿が現れた。猿の要求に應えると猿は僕たちの仲間になった。僕らが進んでいると、物陰に黒い影…だれだ！
「あの…柿の件でお世話になった…」
「お、お前はカニ！ こんなの台本に書いてないぞ！ キジはどうした！」「それならばこの鍋の中です。猿さん、合戦の続きを…」

褒：さるかに合戦と絡め、キジ鍋のブラックさがその後の猿の命運を暗示させるところが秀逸。タイトルも不穏な雰囲気を醸し出す。

『KYな一寸法師』

一年二組 無記名

僕と犬が歩いていると猿が現れた。猿の要求に應えると猿は僕たちの仲間になった。僕らが進んでいると、物陰に黒い影…だれだ！
それは桃太郎の祖父だった。
「桃太郎や、鬼は一寸法師が退治したそうじゃ。さあ、祖母さんのところへ帰ろう」
家を出る口実を失う桃太郎であった。

褒：はっきりと自分の気持ちを表に出せない桃太郎と、KY一寸法師の鬼退治によって、上手くコメディにしている点が良い。

『たいほされたなう』

一年四組 O

僕と犬が歩いていると猿が現れた。猿の要求に應えると猿は僕たちの仲間になった。僕らが進んでいると、物陰に黒い影…だれだ！
「警察だ！ 武器をおろせ！」
「い、いや、僕たちは鬼退治に…」
「問答無用、言い訳なら署で聞いてやる」
僕は、銃刀法違反の疑いで逮捕された。

褒：昔話を現代のルールに当てはめ、さらに、タイトルとの合わせ技で、しっかりとコメディに仕上げているところが上手い。